

授業のポイント



①モデルとなる児童の思考から見通しをもつ



モデルとなる児童による課題解決の方法や理由を映像を見ながら説明を聞くことで、練習方法の選び方や技術ポイントなど課題解決の見通しをもつことができました。

②課題解決の手がかりを得られる角度から撮影する



課題となる動きが見やすい位置で撮影することで、課題解決への手がかりが得やすくなりました。



技の段階表、連続図



技の段階表や連続図を掲示しておくことで、今の自分の習得度を確認、次に目指すとよい技能やそれを習得するための練習方法をつかむことができました。

ICTの活用



自分で決めた課題解決の見通しを、グループの仲間に映像を見せながら既習の知識を使って伝えました。映像を見せる際には、スロー再生をしたり解決したい場面でストップしたりするなど工夫しました。